

桜蔭俳話会 三月句会 (第三七三回)

平成三十一年三月二十四日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

4点①	隙間なき監視社会を春の風	明美	1点	ウルトラマンのショーの立見や桜冷え	友子
3点	あんなにも手を振る別れ春コート	才美			
3点	校庭より飛び出すボール初蝶来	友子	1点	ヘンゼルの置いてゆきしか白椿	秀夫
3点	万愚節浮き石多き女坂	才美			
2点①	画家をればそは印象派花菜畑	守	※		
2点①	春一番重きリュックの千鳥足	友子		桃の花ローカル線の直売所	守
2点①	緋木瓜咲く今日はどの面かぶらうか	才美		火焰土器に咲き乱れをり桜草	ヤエ子
2点	ひもすがらラジオ流るる春の風邪	友子		寒立馬見ての便りや北斗星	幸
2点	いざ行かん紅梅薫る黄泉の国	眞壽		角打ちの酒飲む夕べ春隣	眞壽
2点	クロバー割り着陸の逆噴射	守		高層ビル林立の街椿咲く	ヤエ子
2点	春嬉し髪に気合ひの水油	ヤエ子		げんげ田のわが里カツプ麵の汁	秀夫
2点	パンドラの箱のからつば桜かな	才美		山笑う会津土魂や今は無く	眞壽
2点	創世の星の欠片やいぬふぐり	秀夫		満開の盆梅乱れ春一番	幸
2点	花芽吹き仮設出る人残る人	明美		白き脛見せパンタロン春の街	ヤエ子
2点	遣伝子に否定されをり種選	秀夫		鶯の初音の近し幼きや	幸
2点	命尽く刻を知らせる春の雪	眞壽		蜆汁開かぬ一貝また会おう	秀夫
1点①	リラの花余命と言ふは平均値	守		菜の花や眼下の海を染めること	友子
1点①	早足の雲水ふたり花の中	才美		沖見ゆるテラスに祖父と春夕焼	才美
1点	耕や十平米の畑広し	秀夫		寺の森見え隠れする冬雲雀	幸
1点	地震ありし海の碧さよ黄水仙	守		旅立ちに紅梅薫るあの世かな	眞壽
1点	朧から紅つかみとる柿右衛門	才美		花芽吹く海道沿ひをエコ電車	明美
1点	春めくや片手ポケットペダル漕ぐ	ヤエ子		隣家との境となりし桜草	ヤエ子
1点	城址の石垣崩るすみれ草	友子		沈丁や水の匂ひの高まりぬ	守
1点	小さき子の開く手のひら董草	守		白秋の散歩道行く遠初音	友子
1点	涅槃図やこの鹿だつたかもしれぬ	秀夫		物忘れひどくなりしや錨草	ヤエ子
1点	彼岸寺つがいの影の西のそら	秀夫		啓蟄や面白好きが集ひたる	友子
1点	残し置くひとつのメール卒業す	友子		飼い猫のわれに懐つかず涅槃の日	秀夫
1点	春寒の大和に遺す愛ひとつ	明美		啓蟄や自転車追ひこし追いこされ	ヤエ子
1点	かたわらに本読む男めかり時	才美		遠目にも金のさやぎや花ミモザ	才美
1点	病得て惜しき人あり鳥帰る	眞壽		斬新な句をありがたう涅槃西風	友子
1点	花水木ひとは疲れて眠りけり	守		和の壺になじみし藍のヒヤシンス	ヤエ子
1点	炯眼の黒猫過ぎる実千両	幸		揺らぎなき市長の覚悟花嵐	明美
1点	ジッパーに噛まれています春の昼	才美		(欠席投句 古野明美、稲葉幸)	
1点	釈迦堂の藁屋根覆ふ春日かな	ヤエ子			
1点	デイバッグ背負ふマラソン花大根	守			
1点	清明のメモを見て書くわが住所	秀夫			
1点	華やぎのときの一瞬花辛夷	守			

「事務局からお知らせ」

○「平成三十一年度定例会句会及び通信句会の実施について」、同封します。

○第一三三回通信句会作品募集

春の季語を用いた三句。締切りは五月五日（日）同封の葉書でお送りください。

○四月句会

四月二十八日（日）午後一時から、旭区民文化センター（サンハート）で行います。
兼題は、「鳥（いろいろな鳥）」

○五月句会

五月十九日（日）、港の見える丘公園で、吟行します。句会場は、大佛次郎記念館会議室。詳細は追って、お知らせいたします。

○六月句会

六月二十三日（日）午後一時から、旭区民文化センター（サンハート）で行います。

訃報

会員の松浦かほるさんは、二月八日、逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。